

第2回エデューカーレ in たかはし

# 市長と語ろう「高粱の未来」

## 報 告 書

開催日時：平成27年2月18日(水) 18時00分～21時00分

会 場：高粱文化交流館3階 第2講座室

主 催：エデューカーレ in たかはし実行委員会  
後 援：高粱商工会議所青年部  
協 力：吉備国際大学井勝研究室

## 1. はじめに

地域（特に中山間地域）の疲弊が進行している現在において、今後どのように地域を経営していくのか明確なビジョンを作成するとともに、多様な人を結びつけてビジョンを実現することができる人材が必要となっています。

「エデュカーレ in たかはし」は、吉備国際大学の学生が主体となってワークショップ型の課題解決手法を実践することにより、学生が実践的な課題解決能力を身につけ、社会に貢献できる人材となることを目指しています。学生が高梁という地域で、地域と共に学ばせていただき、少しでも地域に貢献することができればとの思いから企画しました。

第2回目の今回は、高梁市の近藤隆則市長をお迎えし、市民をはじめとする参加者の皆さんと高梁の課題や今後の展望などについて語り合いました。グループワークは初めての試みとなる「フィッシュボール・フリップボードディスカッション」という形式で行ったことから、議論の深まりに欠ける部分がありましたが、沢山の意見が出され今後につながる有意義なフォーラムになったのではないかと思います。

## 2. 実施内容

### 1) 全体プログラム

オープニング（18時00分～）

1. 実行委員長あいさつ
2. プログラムとグラドルールの説明
3. 自己紹介

グループディスカッション（18時30分～）

グループディスカッション（1回20分、6回繰り返し、2時間）

1. 質問に対する意見をA3版のフリップボードに記入
2. フリップボードに記入した意見を説明
3. 市長が5分間、ご自身の意見及び参加者の意見に対する見解を説明
4. ディスカッション
5. グループメンバーを交代して、次の質問項目について議論

チェックアウト（20時30分～）

1. グループに分かれて感想の共有
  - (1) 「今日のワークで感じたこと」について述べる
  - (2) グループ内での共有
2. 各グループ代表者の発表
3. 市長の感想

閉会あいさつ（20時55分～）

## 2) ワークショッププログラム

### 1. オープニング (30分)

(1) 実行委員長あいさつ (2分)

※趣旨説明、あいさつ

(2) プログラム・グラドルールの説明 (5分)

(3) 自己紹介 (17分)

※1人30秒。①名前 ②出身地 ③今住んでいるところ ④所属 ⑤一言

### 2. グループワーク (1回20分、6回繰り返し、2時間)

(1) グループ分け (参加者6人+市長+ファシリテーターの計8人)

※事前に振り分けておいた参加者名を総合司会者が読み上げる。

(2) 意見の抽出 (1分)

※ファシリテーターが質問項目を読み上げ、参加者はそれぞれ各自の意見をフリップに記入する。

①人が楽しく幸せに過ごせる地域社会はどのようなものだと思いますか？

②定住者を増やすには、どうすればよいと思いますか？

③農業従事者を増やすには、どうすればよいと思いますか？

④観光客を増やすには、どうすればよいと思いますか？

⑤地域住民同士のつながりを深めるには、どうすればよいと思いますか？

⑥あなたが今後のばせると思う高梁の魅力はなんですか？

(3) 意見の発表 (各1分)

※グループワーク参加者が各自の意見を発表する。

(4) 市長の考え (5分)

※市長に自身の考えを述べていただく。

(5) 市長への質疑応答 (7分)

※参加者が市長の発表に対し質問する。

(6) グループの入れ替え (1分)

### 3. 感想等の共有 (30分)

(1) 新たに5グループに分ける。

(2) 「今日のワークで感じたこと」について1人1分ずつ述べる

①グループ内での共有 (10分)

②各グループ代表者の発表 (10分)

③市長の感想 (10分)

### 3. 実施結果

#### 1) 参加者

参加者は、一般市民14名、学生12名、教員1名と市長の27名でした。なお、見学のみの方が7名ほどおられました。

#### 2) 質問項目の選定とワークの内容

今回のワークショップ開催に当たっては、10月～11月の2ヶ月にわたり、毎週ワークショップの内容について検討してきました。KJ法を用いて高梁の未来像を考え、その結果を基にして15項目程度の質問項目を抽出しました。その後、これらの質問項目について、実際にフリップボードディスカッションを行い、質問項目として適切かどうかを検討するということを繰り返し、最終的に6項目に絞り込みました。この6項目についての練習ワークを繰り返して行い、当日のワークショップを迎えました。

今回の質問項目は以下の6項目です。

- ①人が楽しく幸せに過ごせる地域社会はどのようなものだと思いますか？
- ②定住者を増やすには、どうすればよいと思いますか？
- ③農業従事者を増やすには、どうすればよいと思いますか？
- ④観光客を増やすには、どうすればよいと思いますか？
- ⑤地域住民同士のつながりを深めるには、どうすればよいと思いますか？
- ⑥あなたが今後のばせると思う高梁の魅力はなんですか？

#### 3) グループワークの結果

グループワークの結果については、＜グループメンバー6人の回答＞、＜市長の見解＞、＜質疑応答＞、＜グループメンバー以外の参加者の回答（フリップボードに記載されたものを書き出しました）＞をまとめました。市長の見解と質疑応答の内容はメモと録音を参考にして、分かりやすいように要点のみを箇条書きでまとめました。

#### Q1：人が楽しく幸せに過ごせる地域社会はどのようなものだと思いますか？

##### ＜グループメンバーの回答＞

- ・個人それぞれが自立した社会。
- ・安心・安全な社会。地域でのつながりや近所づきあいが気軽にできる社会。
- ・自分が前向きに考えて過ごしていく。
- ・地域コミュニティーが充実した社会。
- ・子どもの声が聞こえるような社会。
- ・経済優先である現代社会の方向性はダメ。多くの人が幸せを感じる社会に。

### <市長の見解>

- ・東日本大震災では被災者の生活が一変したが、そこに温かい手が差し伸べられた。それを次、何か役に立てるか、という思いが大切。
- ・地域の一員として「自分は何をなすべきか」、「自分がコミュニティーで果たせる役割は何か」という考えを持っておかなければならない。
- ・人と人がつながることが大事。話し・飲み・散歩など、コミュニケーションが大切。
- ・最大のキーワードは「つながり」。自分が、みんなが嫌がるような仕事を率先してでも生きていけるような人づくり。コミュニティーができているところは強くなる。

### <質疑応答>

- ・つながり、コミュニティーが大切、という意見が多かったように思う。
- ・コミュニティーの大きさをどう考えるかが大切。基本的には町内会単位で考えるのが良い。
- ・地域だけでなく、いろいろな立場の人が集まる横のつながりも大切。横のつながりも一種のコミュニティーと考えることができる。
- ・以前の調査で、小学6年生の95%が将来も高梁に住みたいと答えたが、実際には出て行ってしまふ。仕方ない面があるが、どうやって帰ってきてもらうか。
- ・誰もが役割のあり地域、誰にも居場所のある地域社会を作るのが大切。

### <参加者全員の回答>

- ・市民が主体的に社会づくりに参加している社会
- ・それぞれがつながっていて信頼関係があること
- ・刺激があること
- ・やっぱり安心・安全
- ・人と人がつながり合い、コミュニケーションがしっかりとれること。
- ・世代関係なく、つながりのある社会。助け合える。
- ・地域コミュニティーが活発
- ・当たり前の人に親切にできる地域社会。人に親切にすれば喜ばれ、自分も幸せになれる。
- ・地域の方とつながりがあり、助け合える地域社会。
- ・老若男女問わず安心・安全
- ・困ったときにお互い助け合える
- ・健康であること。
- ・役割がある。認められる。
- ・人と人が深いつきあいができる社会
- ・個人個人が自立する
- ・人と人が助け合える社会
- ・人と人が刺激し合える社会

- ・楽しいことがたくさんある社会
- ・先輩たちの知恵、経験が受け継がれていく社会
- ・次々と新しいことが生まれる社会
- ・密な近所づきあい
- ・子どもが安全に住める！！
- ・人と人のつながりがあるコミュニティ
- ・みなそれぞれの居場所がある社会
- ・個人差があると思うので、自分自身が楽しく幸せだと思うようにする。後ろ向きにならず前向きで！
- ・他人を受容しやすい社会。自分を出せる社会。
- ・住民も地域も自立！
- ・独自の地域経済圏を！アンチ・グローバル経済『定常経済』→トータルに充実

## **Q2：定住者を増やすには、どうすればよいと思いますか？**

### ＜グループメンバーの回答＞

- ・高梁の良いところを発信していく。
- ・人を好きになる。好きな人がいることで、そこにいたくなるから。
- ・仕事・教育・医療の充実、安心・安全。又は課題があっても住みたくなる魅力づくり。
- ・中心部以外にも医療施設を充実させる。
- ・定住を続けることで何かしらの特典を。
- ・城下町を生かし、景観をよりよくする。
- ・独自の経済圏をつくる。

### ＜市長の見解＞

- ・定住者を増やすのは難しい課題であり、「これをやれば増える」というものは無い。また、複数の対策を一度に行うのは不可能。ただ、周りから見て、高梁に住んでいけば安心できるような環境づくりを、あらゆるものを動員していけばできる。
- ・人口の自然減は続いているが、社会減は平成23年頃から止まりつつある。
- ・自分が望む住みかの創造と価値観が一致すれば高梁に住む人もいる。仕事で住む人、子育てで住む人、好きな人がいるから住む人もいる。
- ・一度に全部を実行するのは不可能。できるところ、高梁らしさを出せるものから順に対策を実行していく。
- ・定住には仕事と教育が付きもの。
- ・高梁市は高齢化率37%を超えたが、健康寿命は岡山県下トップクラス。求められる年代層によって定住対策は違う。
- ・出産について、救急車を活用した「ママ・サポート119」を運用している。

- ・空き家に関する政策が国の法律の影響もあり、不十分だ。

#### <質疑応答>

- ・女性を大切にすることが大切。UIJ ターンは奥さんの同意がないとできない。
- ・空き家がたくさんあるが貸してくれない。仏さんがまつられていると、貸しにくいというのは分かる。
- ・若い人が住む市営住宅を整備したが、古い住宅の改修に法律の壁がある。
- ・来る人を増やすのも大切だが、出る人を減らすのも大切。
- ・出て行った人が帰りたくても地域のコミュニティーに溶け込めない。

#### <参加者全員の回答>

- ・ターゲットを絞る
- ・何もしない。今いる人たちで頑張る。
- ・魅力ある町に…。
- ・自然豊かな高梁だからこそ出来ることをもっと増やしていく
- ・住みやすい町にする
- ・子育て、教育に特化する。
- ・人材育成
- ・減少の問題点のクリア
- ・人口増にはやはり若い世代の家族に住んでほしい。→出産祝い、幼児教育の補助
- ・いろいろな年代の方に仕事があること。
- ・高梁出身の子どもたちが高梁に帰ってきたいと思えるような町づくりや支援
- ・すでに移住して頑張っている人を紹介する。
- ・住むところ、働く場所、環境を提供。
- ・本気で取り組めば…
- ・団塊（世代）を呼ぶ→息子も後々呼ぶ
- ・子育てしやすい環境を作る
- ・女性が住みやすい→子供が安心して育て、産めるような場所に。
- ・第1次産業の復興、観光産業、第6次産業の振興
- ・企業誘致による地域内トリクルダウン→地場企業の存続につながる
- ・転入者に対する住宅確保
- ・中途半端な施策では難しい
- ・親世代の価値観の転換→まずは子どもが定住。楽しそうに過ごす→外からも人が来る？
- ・受け入れ側の人の考えを変える。
- ・いい場所だともっとPRする。
- ・生活に必要な人・モノ・仕組み・財 etc...すべて自前でまかなえるようにすること。『地産地消』

### Q3：農業従事者を増やすには、どうすればよいと思いますか？

#### <グループメンバーの回答>

- ・収入の安定化。
- ・農業ができる土地づくり。ボランティア団体によって耕作放棄地を再生。
- ・農業に興味を持ってもらう。
- ・価格競争はよくない。まずは学校給食で。一反農業のすすめ。
- ・農業体験できる場をつくる。何が自分に合っているか。

#### <市長の見解>

- ・農業を知らないと安易な気持ちで取り組もうとする。自己資金なしでは難しい。
- ・農業がどんなものか知っておかないといけない。それを教える人、初心者を支える人、情報発信が必要。
- ・専業だけでいいのか。半農半Xも大切。

#### <質疑応答>

- ・農業で大切なのは作物を作ること、これから大切なのは、作って、加工して、売ることまでを含めて農業と考えること。
- ・6次産業化が大切。
- ・売れるものを作る、販売ルートを考えるのも大切。
- ・就農を考えている人のための体験場所ではなく、少し興味がある人が気楽に来ることができる体験場所があるとよい。
- ・親世代の価値観を変えないといけない。親世代が、農業はだめだと言っているのに、子供が継ぐわけがない。
- ・就農する若者が変人扱いされている。

#### <参加者全員の回答>

- ・女性
- ・収入の安定化（大規模化、ブランド化）
- ・体験してもらう
- ・自然が豊かなので美味しい作物が作れることをPRしながら農業体験などを行い、農業に興味を持ってもらう。
- ・農業従事者の生活を安定させる
- ・（農業の）方法を教える
- ・儲かる仕組み・補助金の活用＝6次産業化
- ・アドバイザーの育成
- ・都市部の失業者やホームレスらを高粱に招き、農業教育。また、市内の空き家などを安価で提供。
- ・先輩の新規就農者の体験を伝える
- ・高粱の1番をきちんと知る。発信する。（トマト、ピオーネ…）



- ・海外と戦う農業
- ・体験をさせる！！
- ・農業の良さを伝える。→どうやって？
- ・農地の拡大、十分に農業をできるまちづくり
- ・興味を持ってもらえる何かを…
- ・きっかけ
- ・農業を知る
- ・特異な野菜、果物生産
- ・大都市圏での誘致説明会の開催
- ・農業指導、土地のレンタル、補助金の充実
- ・価格競争はしない！
- ・まずは給食から
- ・農業だけでなく、複合的な産業として、一反百姓（農業のすすめ）
- ・農業というものを知っていただく。
- ・農業収入（成果）を増やす
- ・運命共同体としての地域社会を創る！
- ・空気・水・食糧・エネルギー・医療（漢方）・教育（文化伝承）

#### **Q 4 : 観光客を増やすには、どうすればよいと思いますか？**

##### <グループメンバーの回答一覧>

- ・ロコミで情報発信。
- ・リピーターを増やす。ハード面だけでなくソフト面を充実させる。
- ・雰囲気づくり。「〇〇の町」が多いので、的を絞る。
- ・逆に、観光客を増やしてどうするのか。先を考えることが必要。
- ・メディア戦略、旅行業者への売り込み。
- ・市内各地の観光地を一体的に。

##### <市長の見解>

- ・高梁に「いいもの」はあるが、それは何か？
- ・備中松山城は数少ない「本物」が残っているお城。
- ・ここにしかないもの、ここにしかないサービスを提供する。
- ・的を絞ることも大切だが、他にも方法はある。
- ・学生は4年間の旅行者。しっかり市内を見てほしい。
- ・もっと「本物」があるはず。

##### <質疑応答>

- ・お土産を買う場所がない。駅周辺にお土産屋が必要。
- ・何かキャンペーンが必要

- ・学生がどう思っているか、学生の印象を聞いてみたい。聞いて見たい。
- ・トイレの街を目指す。きれいなトイレが当たり前にあることが必要。当たり前なのが、当たり前にないと、次は来てくれない。
- ・学生もいろいろなところに行ってほしい。学生が見どころ、食べどころを紹介する。

#### <参加者全員の回答>

- ・ネーミングを楽しくする
- ・PR・情報発信
- ・備中松山城などの観光地、その他名産品をもっとPRしていく。
- ・高梁の良いところをPRする
- ・市民の意識改革
- ・おもてなしの心
- ・増えているので、来た人が満足して帰ってもらえる様に口コミでの増加、リピーター、おもてなし。
- ・景観をそろえる。清潔感をもっとアップする。商店街をどうにかする。
- ・ドライバーの視点で…市境の標識をもっと魅力あるものに！
- ・住んでいる人が高梁を好きになる。
- ・高梁の名産・名所をより紹介する場を増やす
- ・市、観光協会などのHPをもっと楽しくする
- ・おいしいもの、お店、ユニークな人、美しい場所を上手に発信する。
- ・高梁で人が感動する仕掛けを作る。
- ・伝統芸能
- ・今ある高梁の良い場所、食べ物などを新しく作るのではなく、もっと伸ばすべきだと思う。
- ・景色・街並み
- ・高梁だからできる取り組み。季節ごとに街並みを変える。
- ・学生たちは旅行客
- ・高梁は学生が多いので、学生が観光のイベントなどを考えたらいと思った。
- ・今までにない観光イベント
- ・お金を落とせる産業（レストラン、宿泊、お土産、体験型観光）
- ・観光協会の在り方。ビジネス感覚。
- ・住民が観光地に住んでいるという認識をもつ。
- ・トレイル、Wi-Fi、おみやげ
- ・市民一人ひとりがPRする。
- ・リピーターを増やす。また来たいと思える。
- ・観光物だけではなく、おもてなし。
- ・住民自身が観光客として楽しめる感動的な場所やサービスを創る。

## Q5：地域住民同士のつながりを深めるには、どうすればよいと思いますか？

### <グループメンバーの回答>

- ・3間（空間・時間・仲間）を持つ場所・行事を増やしたら良いと思う。
- ・コミュニケーションのできる場をつくり、そこで話をする。
- ・地域以外の人とも。
- ・都市部に比べたら良い方。消防団のように目的があるコミュニティーが大切。
- ・運命共同体『自立』一緒に汗を流す、一緒に楽しむ、祭り etc..
- ・町村単位の枠が良い。ESD と地域住民の生活・知恵の伝承。

### <市長の見解>

- ・一つの作業で価値観を共有する。そういう場を提供したい。
- ・地域の一員である以上、自分の役割を見出す必要がある。一人では生きていけない。
- ・松山踊りなど、学生にどんどん参加してもらいたい。
- ・まず、お隣同士が繋がらないといけない。
- ・つながりを作る一つの方法として防災訓練が良いと思う。

### <質疑応答>

- ・お祭りはつながりを作るのによい。
- ・松山踊りの人が減っている。子供が減っているから仕方が無い。
- ・防災訓練は人々の助け合いが必要なので良いと思う。
- ・消防団などは目的がある組織なので、深いコミュニケーションを取ることができる。

### <参加者全員の回答>

- ・祭りをする。参加型のイベントをする。苦労を共にする。
- ・住民が気軽に集まれるような会などを多く開催する。
- ・イベント・まつりを協同で行う
- ・3世代の交流
- ・目的のあるコミュニティーにする（例：町内会→目的なし、消防団→目的あり）
- ・行事を増やす。行事のPRをもっとしっかりする。
- ・公民館・町内会レベルで交流できるようにする（例：町内会単位での防災訓練）
- ・地域住民同士での協同イベントを毎月行い、仲を深めるよう努める
- ・コミュニケーションができる場、時間、仕組みをたくさんつくる。
- ・困ったとき・困ったことを助け合える仕組み
- ・お互いの価値観を認め合える
- ・母親同士のつながり＝子どもの存在
- ・イベントを増やす。
- ・地域内の交流を深めるイベント…すべての人が楽しいと思えるものを。

- ・高梁という町が地域の人みんなが素晴らしい、大好きだと思えるようになれば高梁を守りたいという気持ちでつながりも…
- ・大きな祭りなどをして深める
- ・行事を増やす
- ・町内会の存続、会へのサポート
- ・同窓会、転入者（県人会など）へのサポート
- ・前提として、つながりたくない世代、時間がない世帯
- ・物理的な時間、場所などにとらわれない共有方法はないか？しかも、デジタルでなくアナログで。
- ・まずは、気の合う仲間で気軽に集まれる場づくり。
- ・もっと会話をする
- ・お隣さんとあいさつする

#### **Q 6 : あなたが今後のばせると思う高梁の魅力はなんですか？**

##### <グループメンバーの回答>

- ・観光資源。市境の標識にイラストを入れて PR。
- ・伝統料理などを発信。
- ・自然と利便性の調和。
- ・子育て・教育。
- ・エネルギーを含め、自給率 300%のための産業、人づくり。
- ・観光産業。吹屋往来の再興、地元観光トレイル（宿泊型）など。
- ・国内で災害時には疎開先にもなる。

##### <市長の見解>

- ・高梁の山・川・自然は貴重な「財」。ここにしかないもの。
- ・高梁の歴史から文化、教育がキーワード。
- ・本物が持つ魅力はどんどん伸びていく。
- ・自然や山の魅力を見いだす。

##### <質疑応答>

- ・高梁川に再注目する。
- ・高瀬舟を資源とする。また、川で遊べるよう、カヌー場や水遊び場を整備する。
- ・自然だけでなく、学業や教育もキーワードとなる。
- ・3 万人の町にこれだけ高校、大学があるところは少ない。学校の連携が出来れば良い。
- ・不謹慎かもしれないが、災害があると高梁の価値がわかる。
- ・もっといいところがあるはず。

### <参加者全員の回答>

- ・農業
- ・危機感を持つ
- ・親近感
- ・城
- ・観光客増加により町の活気があふれること
- ・人づくり
- ・高齢者の元気
- ・仲間が元気で暮らして行ける
- ・半農半Xのまち
- ・学生の町
- ・おいしいもので、高梁の注目度をUPする。(例：MAPづくり、郷土料理など)
- ・城下町
- ・景色・街並み
- ・松山城までの道、森（自然）、商店街を元気に、高梁川ともう一度。
- ・景色、昔からの街並み
- ・松山城
- ・森林が多い
- ・史跡、伝統文化、歴史遺産の発掘（魚の道）
- ・「吹屋往来」
- ・林業
- ・やる気さえあれば、何でものばせると思います。
- ・備中高梁駅（泊まる、停まる、集まる、発着、目印、発信）
- ・すべて→自立。常に地元を向ける（断片ではなく、トータルに）

### 3) 感想のまとめ

フィッシュボール・フリップボードディスカッション終了後に、4～5人で5グループに分かれて感想の共有をしていただきました。その後、代表者にグループで話し合われた内容を発表していただきました。以下に、発表の内容をまとめました。また、最後に市長に感想を述べていただきました。

#### < Aグループ >

- ・昔からの文化や歴史が高梁には多くあるので、それを生かしていければと感じた。
- ・学生たちがもっとイベントに参加すれば町が活性化するのではないかと思う。
- ・いろんな立場の方の意見を聞いたこと。
- ・地域の方との意見交換ができた。

#### < Bグループ >

- ・今ある複数の課題を一つずつ解決していき、長期的にそれらの点と点をつなぎ、

高梁にとって良い未来になればと思う。

- ・地域自体が自立して、その地域が一体的となって高梁を良い未来に変えていく意識をもつことが大切。

#### < Cグループ >

- ・学生と地域との間で壁があるので、学生が積極的に地域と関わるために外に出る。
- ・地域の人も学生も情報発信・共有・イベントをしないと、何があるか分からない。

#### < Dグループ >

- ・他の人の意見が聴けたので良かった。今後もこうしたことを続けていくと良い。
- ・テーマが多かったので、絞り込んだ方が話しやすかった。
- ・学生の意見をより引き出せるような機会があればと思った。
- ・この場の人々が、コミュニティーの始まりだということ。

#### < Eグループ >

- ・市長に限らず様々な世代・職に携わる方に対する多様な考え方について共有できた。
- ・学生と市民の考えの違いをうまく乗り越え、より良い方向に持っていければ。
- ・学生にはもっと市長と激論してほしかった。
- ・学生は SNS を活用して PR してほしい（例：高梁 ist）。

#### < 市長から >

- ・高梁市民と市外の人との考えは必ずしも一致しない。
- ・答えが絞りにくいですが、総じて同じ課題意識を共有していた。
- ・課題はたくさんあるが、それをいち早く解決していくことができるのも高梁の良いところ。
- ・こういう会が開けたことがうれしい。
- ・東日本大震災のとき、高梁への避難者の受け入れが岡山県下で最多だった。
- ・高梁の今の自然は宝。良さを守り、生かしていく。
- ・それを市民や市外の人で話し合っていくことも大切。

#### 4. アンケートのまとめ

##### (1) 参加者

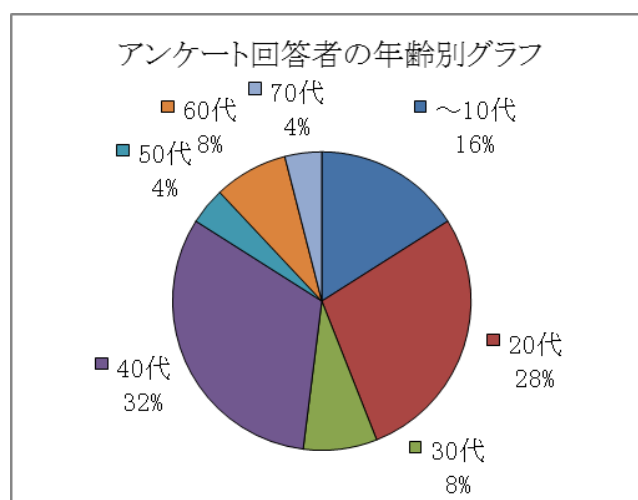
参加者は、一般市民14名、学生12名、教員1名と市長の27名でした。アンケートは実行委員を含め、25名の方から回答がありました。以下にアンケート結果をまとめました。

##### (2) アンケート回答者の年齢・性別・居住地

年齢	人数
～10代	4
20代	7
30代	2
40代	8
50代	1
60代	2
70代	1
80代～	0

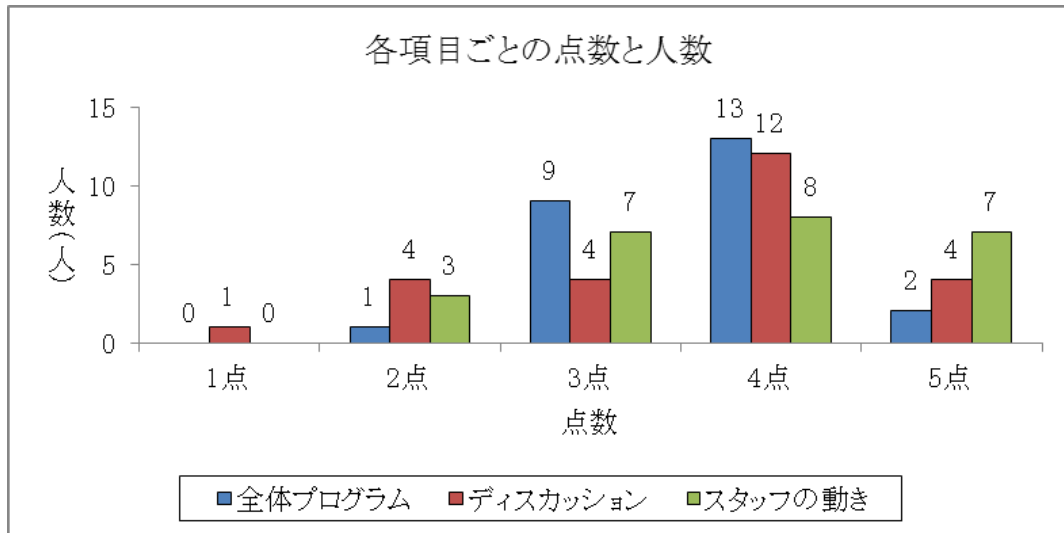
性別	人数
男性	20
女性	5

居住地	人数
高梁市内	19
高梁市外	6



##### (3) グループワーク等の評価

	全体プログラム	ディスカッション	スタッフの動き
1点	0	1	0
2点	1	4	3
3点	9	4	7
4点	13	12	8
5点	2	4	7
有効回答	25	25	25
無回答	0	0	0



(4) アンケート記載事項

<良かった点>

- ・年齢の幅を越えて意見交換ができたこと。
- ・多数の意見を聞かせていただいた。(7人)
- ・いろんな立場の方の意見を聞いたこと。(2人)
- ・地域の方との意見交換ができた。
- ・地域の方の話が生で聞いた事。
- ・学生や参加者、そして市長と多様な考えを共有できた。
- ・学生の意見もふくめてたくさんの方が話すことができた。
- ・市長の考えが聞いたこと。(3人)
- ・市長の話す機会を多くとれており意見を聞きやすかった。
- ・市長との距離が近く、話しやすかった。(2人)
- ・市長の話の一つ一つの話題でじっくり聞くことができた。
- ・日頃あまり聴けない大人の意見が聴けた。
- ・人数的に丁度良かった。
- ・テーマを絞ったこと
- ・テーマについて金魚鉢形式で話すのを第三者的に見れてよかった。
- ・学生が活発に意見・進行をしていてよかった。
- ・スタッフとして、いいきっかけのなったと言ってもらえたことがうれしかった。
- ・タイムキープ
- ・流れ
- ・円滑に進んだ。
- ・会場が適度なスペースでやりやすかった。
- ・全体的なまとまりがあり段階的に考えれたこと。
- ・考えることの大切さ。



- ・一人一人が意識を持つことの大事さを知れた。
- ・高梁に対する意見はもちろん、意見の仕方や話の作り方などとても勉強になった。
- ・高梁の将来について考えるきっかけとなった。
- ・高梁の良い所を知れた。
- ・楽しい時間でした。(2人)
- ・みんな高梁が好きなんだと感じた。
- ・フリップディスカッションの方法が勉強になった。

#### <悪かった点>

- ・学生たちの意見をもっと聞きたかった。(4人)
- ・テーマが広いので、もう少し的をしぼってもよかった。(5人)
- ・もう少しひとつのテーマについて話し合い
- ・漠然としたテーマが多いような気がしました。
- ・問題が難しかった。(2人)
- ・学生がもっと入った方が良かった。
- ・一般サラリーマン、公務員の意見も聞きたかった。
- ・司会をもっと練習する。
- ・あまり時間を気にせずやろう！
- ・時間少し長くつかれた。
- ・時間が短くて全ての意見が出ていなかった。(2人)
- ・フリーディスカッションの時間がほしい。
- ・何回もあたっている人と、1回しかあたっていない人がいた？
- ・同じ人がディスカッションの場に出ることがあったので、来た人が1回は出来るようにしたらいいと思う。
- ・もう少し広い地域の方に参加があるとよりおもしろかったかも。
- ・学生さんの積極性がほしい。
- ・拡散することも必要か？
- ・具体的な施策があがらない。
- ・改善策を見つけられらなと思った。
- ・自分の意見を言えなかった。
- ・意見が言いづらい。
- ・意見集約ができなかったように感じました。
- ・意見は出たが討論にはならなかった。
- ・問題に対して、色々な意見は出るが、解決策が出ないものが多い。
- ・話をまとめるのが難しかった。
- ・第三者側になると意見がしゃべれない。
- ・フィッシュボールのやり方を見直す必要がある。
- ・女性の参加が少ない。(地域づくりの主役は女性)
- ・1人1人の態度

## <感想>

- ・また参加させてください。
- ・良い企画だったと思います。準備から運営まで大切だったと思います。ご苦勞様でした。
- ・第3回、第4回とエデュカーレを続けていってもらいたい。
- ・費用は社会人で負担するので学生と懇親会を開いてもっと本音トークをしたい。
- ・市民と学生の話ができる場があって良かった。
- ・学生に対する期待がすごいなと感じました。
- ・ありがとうございました！！
- ・参加していろいろ考えさせられたとともに、たくさんの意見を聞いて良い経験になりました。
- ・初めて参加させて頂きました。良かった。
- ・たくさんのお話が聞け、未来ある街にしていければ！
- ・貴重な話が聴けて良かったです。高梁のいいところを広げていこうと思いました。
- ・吉備大学生を地域へどんどん出て行ってもらいたい。
- ・参加させていただいて良かったです！今日の記録は何かで共有できるでしょうか？  
→HPですネ！
- ・もう少し事前に進め方などを知らせておくと、進行がうまくできたかもしれません。
- ・はじめての参加でしたが、時間内での進行をうまくまとめてくれました。学生の手際も良かったです。
- ・飲みながらやりませんか？ノミニケーション大事だと思います。
- ・お世話になりました。高梁についてこんなに仕事以外で真剣に考えたのは初めてです。
- ・とても有意義な時間を過ごせた。
- ・このようなディスカッションは、初めて参加しましたが、時間は気になりましたが、よい会でした。
- ・もう少し考えて、来れば良かったと思いました。
- ・まだまだ改善点がたくさんでてきた。
- ・初回なのに良くできたと思った。

## 5. おわりに

今回は「フィッシュボール・フリップボードディスカッション」という初めて試みる形式でワークショップを行いました。かなりの準備をしたつもりでしたが、「フィッシュボール・フリップボードディスカッション」の性質上、活発な意見交換が出来なかった点があることは否めません。また、当日は一般参加者の方にできるだけグループ討論に参加していただきたいとの思いから、1グループ6人の学生が1人しか入ることができず、若い年代の意見を拾い出すことが出来ませんでした。

一方、6項目に質問に対して参加者の皆さんがフリップボードに書かれた内容を見てもみますと、今後のまちづくりのヒントになる項目が沢山あるように感じました。これらの項目を丁寧に議論していくことにより、地域創生につながる施策が導き出せるのではないかという気がしました。多様な人が集まり議論することの大切さを学ぶことが出来ました。

アンケートには良かった点、悪かった点を沢山記入していただきました。悪かった点については実行委員の反省も含まれていると思いますが、沢山の改善点が見えてきました。今後の開催につなげていきたいと考えています。

地域創生が求められている状況において、私たち若者が将来地域創生をになえる人材となる必要だと考えています。エデュカーレ in たかはしは、企画力、課題解決能力、実行力、コミュニケーション能力、ファシリテーション能力など、地域創生に関わる場合に必要な知識と能力を身につけることができると考えています。また、学生や若者が、地域の先達から地域の知や生き方を学び成長する機会を得ることができる機会となると思います。今後も試行錯誤を続けながら継続して開催していきたいと考えています。

## 6. 付録

### 1) チラシ

#### 第2回 エデュカーレ in たかはし

# 市長と語ろう「高梁の未来」

日時:平成27年2月18日(水) 18時00分～21時00分

(17時30分受け付け開始)

会場:高梁市文化交流館第2講座室

内容:18時00分～18時30分 チェックイン(参加者の自己紹介)

18時30分～20時30分 市長と語ろう「高梁の未来」

(フィッシュボール・フリップボードディスカッション)

20時30分～21時00分 チェックアウト(感想の共有)

定員:20名(先着順:下記連絡先にメール又はお電話でお申し込み下さい)

**事前申し込み制**

**参加費無料**

高梁の未来に関する6つの質問について、参加者と市長が回答を作成し、参加者と市長で高梁地域の未来について語り合います。どなたでもご参加いただけます。もちろん、高梁市外在住の皆さんも大歓迎です。

お気軽にご参加下さい



主 催:吉備国際大学井勝研究室  
(エデュカーレ in たかはし実行委員会)

後 援:高梁商工会議所青年部

連絡先(申込先)

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町  
吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科  
井勝(いかつ)研究室  
TEL/FAX:0866-22-9223  
E-mail:ikatsu@kiui.ac.jp

「エデュカーレ in たかはし」

市民と学生が一緒になって地域課題の解決を目指すフォーラムです。また、ファシリテーション能力を備え地域課題を解決するための手法を身につけた市民や学生を育成することを目的としています。実行委員会は吉備国際大学の学生で組織されています。

「エデュカーレ」は「エデュケーション」の略語となったラテン語で「引き出す」という意味があります。「エデュカーレ in たかはし」には市民や学生の課題解決能力を引き出すという思いが込められています。

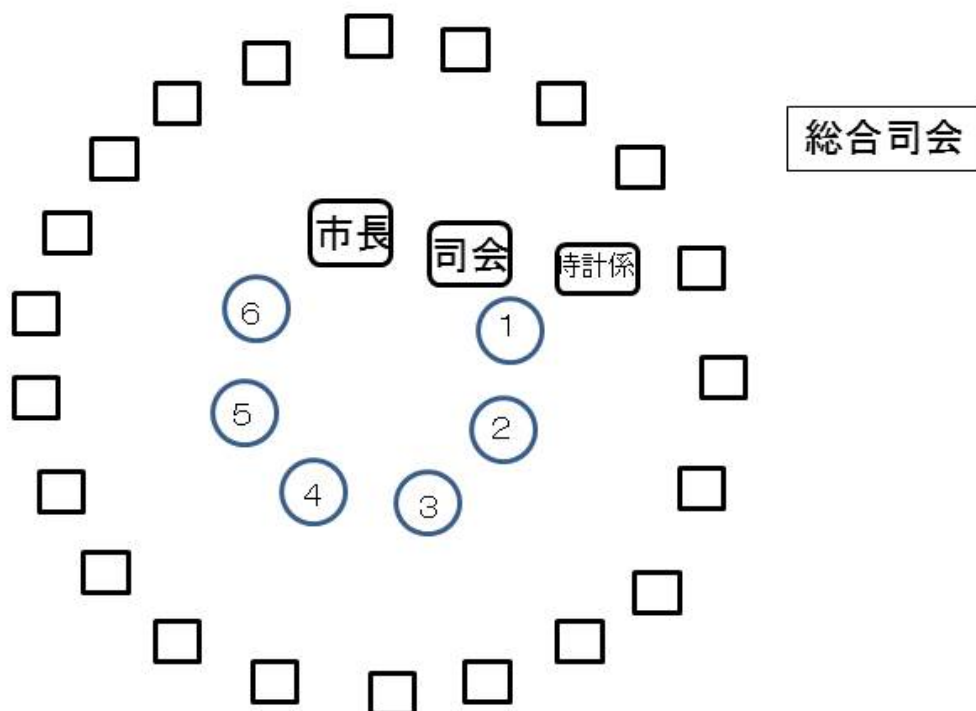
## 2) フィッシュボール・フリップボードディスカッションの説明

### フィッシュボール・フリップボードディスカッション

一つの質問項目に対して、参加者のうち6人が市長と議論をします。残りの参加者は周りから議論を見守るという方法で議論を進めていきます。

議論の方法は下記の通りです。

- 1) 質問に対する意見をA3版のフリップボードに2分間で記入します。
- 2) フリップボードに記入した意見を一人1分で説明します。
- 3) 市長が5分間でご自分の意見及び参加者の意見に対する見解を説明します。
- 4) 5分間のフリートークを行います。
- 5) グループメンバーを交代して次の質問項目について議論します。



質問は下記の6題です。

- ①人が楽しく幸せに過ごせる地域社会はどのようなものだと思いますか？
- ②定住者を増やすには、どうすればよいと思いますか？
- ③農業従事者を増やすには、どうすればよいと思いますか？
- ④観光客を増やすには、どうすればよいと思いますか？
- ⑤地域住民同士のつながりを深めるには、どうすればよいと思いますか？
- ⑥あなたが今後のばせると思う高梁の魅力はなんですか？

### 3) アンケート用紙

第2回 エducare in たかはし  
アンケート

年齢： 10代 ・ 20代 ・ 30代 ・ 40代 ・ 50代 ・ 60代 ・ 70代 ・ 80以上  
性別： 男性 ・ 女性  
居住地： 高梁市内 ・ 高梁市外

全体プログラム： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった )  
(改善点： )

ディスカッション： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった )  
(改善点： )

スタッフの動き： 悪かった 1 ・ 2 ・ 3 ・ 4 ・ 5 良かった )  
(気になった点： )

本日のフォーラムの良かった点をご記入下さい

1. \_\_\_\_\_  
2. \_\_\_\_\_  
3. \_\_\_\_\_

本日のフォーラムの悪かった点、改善点を教えて下さい。

1. \_\_\_\_\_  
2. \_\_\_\_\_  
3. \_\_\_\_\_

感想をご記入下さい。

ありがとうございました



#### 4) 写真

司会進行は崔君。副実行委員長の荒木君の挨拶。



まずは自己紹介をフリップボードに記入します。



フリップボードを示しながら自己紹介① 一人 30 秒以内です。



フリップボードを示しながら自己紹介②



フリップボードを示しながら自己紹介③ (市長にも自己紹介をしていただきました)



6人が市長と議論します。残りの人は周りで議論を見守ります。





フリップボードを示しながら自分の意見を述べます



6人が意見を話し終わったら、市長の見解をお聞きします。



グループメンバーを交代して意見交換を続けます。



質問は6項目です。6回のグループ替えを行いました。





グループ討論終了後、少人数で感想の共有をしました。



各グループの代表者に感想を発表していただきました。



最後に市長に感想を話していただき終了しました。



## 実行委員名簿

### ◇実行委員長

花谷 ほな美 (国際環境経営学部 環境経営学科 3年)

### ◇副実行委員長

荒木 佑介 (社会科学部 経営社会学科 2年)

### ◇実行委員

崔 善基 (チェ ソンギ) (国際環境経営学部 環境経営学科 3年)

安藤 皓星 (国際環境経営学部 環境経営学科 3年)

白神 章文 (国際環境経営学部 環境経営学科 3年)

Tiomico Lea Krizzel (ティオミコ レイア クリゼル) (環境経営学科 3年)

矢田 勇介 (国際環境経営学部 環境経営学科 3年)

在末 潤平 (社会科学部 経営社会学科 2年)

板垣 拓哉 (社会科学部 経営社会学科 2年)

高山 真紀子 (社会科学部 経営社会学科 2年)

蔣 雋旒 (ショウ シュンニ) (社会科学部 経営社会学科 2年)

楊 涵 (ヨウ カン) (社会科学部 経営社会学科 2年)

### ◇実行委員補助

枝光 広斗 (社会科学部 経営社会学科 1年)

大川 朱里 (社会科学部 経営社会学科 1年)

中谷 雅尚 (社会科学部 経営社会学科 1年)

的場 美希 (社会科学部 経営社会学科 1年)

## 連絡先

〒716-8508 岡山県高梁市伊賀町

吉備国際大学 社会科学部 経営社会学科

井勝 (いかつ) 研究室

TEL/FAX:0866-22-9223

E-mail:ikatsu@kiui.ac.jp